



日本共産党

## 尾村利成 県議が

一問一答質問 に立ちます

日時: 6月23日(火)

午後1時～ (予定)

場所: 県議会 第一会議室

質問内容 (質問内容の一部を紹介します)

1. 教員の中途退職(辞職)の状況について
2. 教員未配置の状況について
3. 「教職員働き方改革プラン」について
4. 島根原発2号機再稼働後の相次ぐトラブルについて
5. 老朽原発の危険性とプルサーマルの危険性について

【お知らせ】

島根県議会の生中継が「マール」(ケーブルTV)の12チャンネルで放送されます。

また、島根県議会のホームページからも生中継・録画中継されます。【島根県議会】と検索してください(スマートフォンでもご覧いただけます)。

傍聴の受付は、議事堂1階で行われます。一問一答質問は、第一会議室で行われます。

ぜひ傍聴にお出かけ下さい。また、マールテレビ、ネット中継でご視聴下さい。



## 教員の中途退職・未配置と教職員働き方改革について

多くの教員が長時間労働を強いられ、20代や30代の若手教員の中途退職が増大しています。また、教員未配置(本年5月1日時点の欠員は35人)によって、現場からは「育休も年休も取りづらい」「未配置対応で空き時間がなく、休憩も取れない」などの声が寄せられるなど、厳しい現場の実態があります(中途退職状況は下記参照)。

- 教員未配置によって長時間労働がさらに悪化し、子ども達の学習権が脅かされています。未配置解消には、病気休職者や離職者を出さない支援体制の確立や労働環境改善が不可欠であり、正規職員を増やすことが必要であることを強調します。

## 小学校の教員の中途退職(辞職)の状況(60才未満)

|     | 普通辞職 | 普通辞職の年代別内訳 |     |     |     |   |
|-----|------|------------|-----|-----|-----|---|
|     |      | 20代        | 30代 | 40代 | 50代 |   |
| 小学校 | R元年度 | 22         | 14  | 1   | 4   | 3 |
|     | R2年度 | 22         | 9   | 3   | 6   | 4 |
|     | R3年度 | 21         | 13  | 5   | 0   | 3 |
|     | R4年度 | 38         | 17  | 8   | 10  | 3 |
|     | R5年度 | 35         | 24  | 7   | 3   | 1 |
|     | R6年度 | 36         | 17  | 11  | 7   | 1 |
|     | R7年度 | 36         | 27  | 6   | 1   | 2 |

県教育委員会は「島根県教職員働き方改革プラン」を策定し、教職員の「働きやすさ」と「働きがい」の両立が図られるよう、学校における働き方改革をすすめています。教職員がいきいきと働ける条件を整えることは、子どもたちの教育条件を整えることであり、かけがえない学ぶ権利を保障することです。

- 令和5年度、令和6年度には、抽出で「教職員の休憩時間及び持ち帰り仕事等の実態調査」が実施されました。「全く休憩できなかった」教員が小学校で約4割に上っている事態は、労働基準法に反する異常事態です。働き方改革プランの進捗状況を検証するためにも、「勤務実態調査」の実施を求めます。

## 教職員の休憩時間、持ち帰り仕事の実態調査結果(抽出調査)

|                         | 小学校        | 中学校        | 高校         | 特別支援学校     |
|-------------------------|------------|------------|------------|------------|
| 勤務日(平日5日)のうち、全く休憩できなかった | R5年度 40.5% | R5年度 29.5% | R5年度 13.1% | R5年度 13.7% |
|                         | R6年度 37.8% | R6年度 23.4% | R6年度 5.4%  | R6年度 13.8% |
| 1週間のうち1日以上、持ち帰り仕事を行った   | R5年度 59.6% | R5年度 52.7% | R5年度 47.4% | R5年度 52.7% |
|                         | R6年度 52.6% | R6年度 42.3% | R6年度 41.7% | R6年度 46.2% |

## 島根原発2号機のトラブル、プルサーマルについて

2024年12月に島根原発2号機が再稼働して1年半余りが経ちましたが、わずか1年半の間に相次いでトラブル、不具合が起きています(下記参照)。

- 中電の適正運転は担保されておらず、県民の不安は高まっています。中電の安全管理体制の不備を指摘し、相次ぐトラブルはいつか大事故につながりかねないことを強調します。

島根原発2号機は、運転開始から37年が経つ老朽原発です。圧力容器や配管の劣化は進行し、事故のリスクは増大しており、いつ不測の事態が起きるかわかりません。

- 日本の原発の運転期間は元々30年程度とされていましたが、2012年に民主党政権が運転期間を原則40年にし、1回に限り、20年間延長して60年まで老朽原発を稼働できるように法改正が行われました。原発の寿命の世界平均は28年程度であり、日本は世界でも前例のない60年運転を実施しようとしています。老朽原発でプルサーマルを実施すれば、さらなる危険が増大することを強調します。
- 2号機でのプルサーマル発電に県民の「理解と納得」は得られていません。プルサーマルはウラン燃料での運転を前提とした原発に、ウランにプルトニウムを混ぜた燃料を使う大変危険な運転です。県民の命と安全を守るため、猛毒物質・プルトニウムを島根で燃やすことなど認められないことを強調します。
- ロシアによるウクライナ侵攻でチェリノブイリ原発、ザポリージェ原発が攻撃の標的となり、イラン攻撃でもブシェール原発が標的となりました。原発への攻撃に対する県民の不安は高まっています。原発には、政治的、軍事的リスクがあり、安全保障の視点で原発の危険性を直視すべきです。

## &lt;2024年12月、島根原発2号機再稼働後のトラブル&gt;

- ①2024年12月12日: 原子炉水位計の解釈誤認
- ②2025年2月20日: 原子炉格納容器の水素濃度が確認できない事態
- ③2025年10月20日: 新燃料の受け取り検査の際、核燃料を床に転倒させ、負傷者が出る事態
- ④2026年2月7日: 主変圧器冷却ファン中継端子台の火災
- ⑤2026年2月26日: 燃料プール水位・温度計の動作不能
- ⑥2026年4月30日公表: 設計仕様と異なる原子炉内の燃料支持金具が30年余りにわたって設置